

事例の
ポイント

- 不等沈下対策として基礎部に井桁工法を採用
- 遮水シート等を活用した浸出水抑制策



写真提供：大栄環境（株）

事業実施の背景等

■事業実施の背景

- 平井8工区処分場の埋立終了が迫った時期に東日本大震災が起こったことで、エネルギーの確保が優先課題と捉え、太陽光発電事業に着目した。
- 周囲に遮蔽物がない、民家がない、高压連系ポイントが近隣にある等、太陽光発電事業に適した立地であったことから事業化を進めることとなった。

■事業スキーム

- 処分場管理者（民間事業者）が自社用地を使用して発電事業を実施

■事業の特徴

- 不等沈下を考慮した基礎の設計
- パネル間隔を広くとることでパネル同士の接触による破損を防止
- 架台部には耐食性のある材料を使用
- 遮水シート等を活用した浸出水抑制策を実施

事業の概要

処分場名	平井8工区処分場
処分場種別	産業廃棄物最終処分場
処分場管理者	大栄環境株式会社
発電事業者	大栄環境株式会社
事業開始年度	2014年3月
発電出力	2,000kW
埋立面積(設置面積)	52,870m ² (30,000m ²)

事業実施のメリット

■処分場管理者・発電事業者

- 土地の有効活用、売電収入、維持管理費用の負担軽減等

事業スキーム

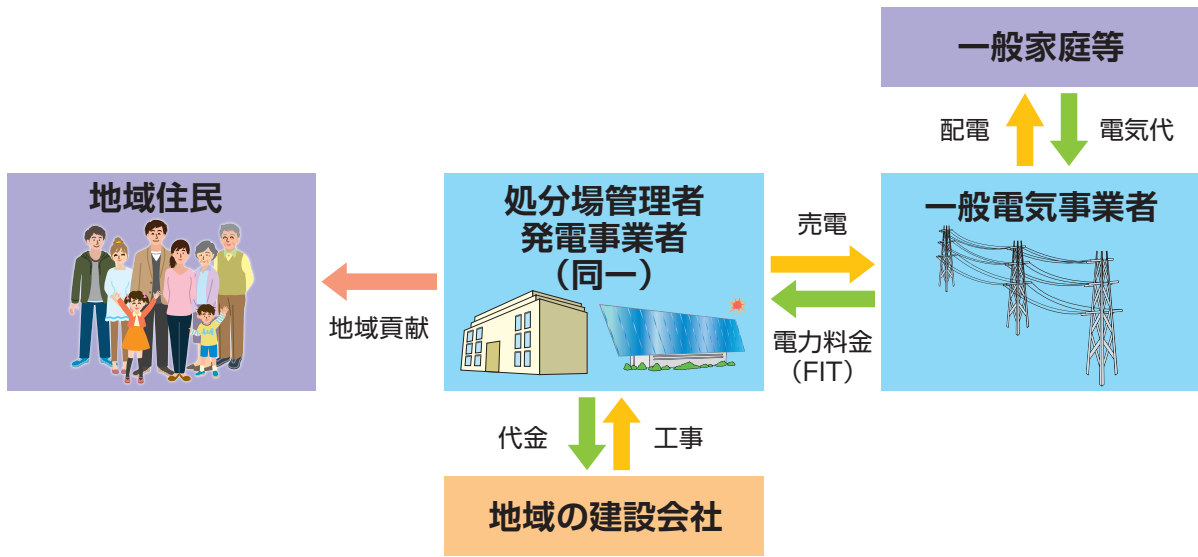


図 DINSメガソーラーの事業スキーム

事業実施にあたってのリスク対策・工夫等



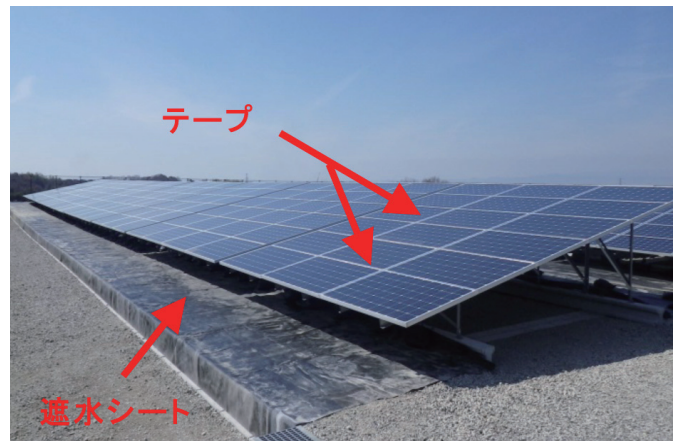
基礎部に井桁工法を採用することにより、不等沈下から発生するひずみによるパネル破損を防止



架台部には錆びにくく強度のあるZAM材(亜鉛・アルミニウム・マグネシウムの合金)を塗装



テープの貼付により雨水をアレイ下方向に集水(浸出水抑制策1)



遮水シートを敷設し雨水を排水することで浸出水を抑制(浸出水抑制策2)

事業実施にあたっての地域貢献策



現地見学等の環境教育を実施



見学用展望台を設置



四季折々の花が楽しめる地域密着型の公園を運営

地元の住民説明会において太陽光発電事業を実施することを報告しました。その他、積極的に外部見学者の受け入れを行っています。また、売電収入の一部は、近隣で一般に開放している和泉リサイクル環境公園の運営に役立てています。



発電事業者

処分場管理者・発電事業者のコメント



沈下量の測定はどのように実施していますか？

30地点で水準測量を実施しており、初年度は月に1回、2年目以降は3ヶ月に1回程度の頻度で計測を継続しています。最大30~40cmの沈下を確認していますが、太陽光発電設備に影響は見られていません。



発電事業者



事業実施に当たって苦労した点について教えてください。

当初計画していた埋立地の跡地形状(かまぼこ状)から太陽光発電設備に適した平地形状に変更するため、大阪府に施設に関する変更届を提出しました。貯留堰堤への負荷等の安全面に関する書類の作成や、関連機関(建築関係部署等)との調整に時間を要しました。



発電事業者